

令和元年度 公益活動事業補助金実績報告書

令和 2 年 1 月 6 日

北 広 島 市 長 様

(申請者)

団体名

特定非営利活動法人 北海道地域政策調査会

主たる事務所所在地

〒061-1132

北広島市北進町 1 丁目 5 番地 1

ロイヤルシャトー北広島 N-807

(代表者住所)

代表者の役職名・名前 理事長 酒 向 憲 司



令和元年 7 月 16 日付けで申請し、令和元年(2019 年) 8 月 2 日北広参住指令 254 号で交付決定された補助事業に係る実績を、北広島市公益活動事業補助金交付事務要領第 6 条の規定により、①交付決定事業収支決算書、②領収書の原本とその写しを添えて報告します。

交付決定事業の名称	胆振東部地震に学ぶ学校の「減災教育と災害対応」に関する事業
総事業費 (円)	443,196 円
実施期間 又は 実施日時	2019 年 10 月 5 日(土) 午後 1 時から午後 3 時まで (第 1 会場) 2019 年 10 月 5 日(土) 午後 5 時から午後 7 時まで (第 2 会場) 事業実施期間 令和元年 8 月 2 日から令和元年 12 月 27 日まで
実施場所	第 1 会場 北広島市 大曲会館(2階) 大集会室 (北広島市大曲中央 2 丁目 4 番地 5) 第 2 会場 北広島市団地住民センター ファミリーホール (北広島市泉町 1 丁目 1 番地)

<p>事業実施により 得られたこと</p> <p>及び</p> <p>今後の展開</p>	<p>当日、両会場共に、天候が芳しくなかったこと、土曜日の午後からの2会場での開催であったこと、参加者が少なかったことなど、反省点が多々あった。</p> <p>いずれにしても、基調講演を担当してくれた北海道厚真高等学校長の南原賢二氏、パネルディスカッションのコーディネーター北海道教育庁石狩教育局義務教育指導監の前川豊志氏、及びパネラーをやっていただいた北広島市立緑葉中学校長小川満氏、北広島市立西部小学校長椿野次雄氏、北広島市総務部防災危機管理室危機管理課長荒川亨氏には、土曜日の休みの日に、2会場で、担当をお願いしたので、ほんとうに申し訳なかった。</p> <p>いくら開催企画が良くても、それは主催者側の思い込みで、曜日の設定や会場の選定、参加の呼び掛け方法などで、当日の参加者数は変わるので、次回の教訓としなければならない。</p> <p>【2019年10月5日(土)午後1時から午後3時までと、午後5時から午後7時まで時間に開催された、シンポジュームの次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 主催者挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ●特定非営利活動法人 北海道地域政策調査会理事長 酒向憲司 3. 基調講演・演題 <ul style="list-style-type: none"> ・胆振東部地震に学ぶ学校の減災教育の現状と災害対応の課題について ●北海道厚真高等学校長 南原 賢二 氏 4. パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター ●北海道教育庁石狩教育局指導監 前川 豊志 氏 ・パネラー ●北海道厚真高等学校長 南原 賢二 氏 ●北広島市立緑葉中学校長 小川 満 氏 ●北広島市立西部小学校長 椿野 次雄 氏 ●北広島市総務部防災危機管理室危機管理課長 荒川 亨 氏 5. 質疑応答 6. 閉会
<p>市に提出する成果物</p>	<p>【成果品の名称】</p> <p>北海道胆振東部地震に学ぶ学校の「減災教育と災害対応」について</p> <p>《別冊の通り》</p>

〈別紙の通り〉

「平成」は幕を閉じたが、日本、北海道において、この時代多くの自然災害に見舞われたことを忘れることはできない。

その中でも、平成5年7月12日北海道南西沖地震、平成12年3月31日有珠山噴火災害、平成30年9月7日胆振東部地震の3つの地震・噴火災害は、道民生活に大きな損害を与えた。

また、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災、平成23年3月11日の東日本大震災の二つの大震災は、日本中に大きな損害を与えた。

特に東日本大震災は、日本周辺における我が国観測史上最大の地震で、東北地方太平洋沖地震による災害およびこれに伴う福島第一原子力発電所事故が相まって、今なお被災地に大きな爪痕を残し、全国的にも影響を残している。

道内の3つの災害では、いずれも発生時が、未明であったり、学校が休業期間中であったが、時間帯によっては、学校において児童、生徒、幼児に多大な被害が出た可能性がある。

阪神・淡路大震災も未明の発生であったが、東日本大震災では、学校においても多くの痛ましい犠牲が在ったことは脳裏を離れない。

防災・減災は全ての人々、団体が、日頃から心がけるべきことはもちろんであるが、病院、学校といった社会的弱者を抱える組織は、その命を守るため、より以上の対応が求められる。

特に平成7年の阪神・淡路大震災において、学校は地域コミュニティの中核として大きな役割を果たし、避難所として使用された学校では、教職員が救援活動に従事するなど避難所運営においても重要な役割を担った。

これ以降、学校・教育委員会等の防災体制・学校施設の防災機能・耐震性や防災教育の在り方等が見直され、防災機能の強化が図られていった経緯もある。

今や学校は、何より大事な子ども達の安全確保の砦としてばかりでなく、地域のコミュニティの核として地域防災の上からも多くの期待が寄せられている。

今や、災害は、「忘れないうちにやってくる」と考えておかなければならない。

地震国日本において、地震を避けることはできず、また予知も極めて困難である。

まだ生々しい胆振東部地震、学校における実際の防災・減災対応は、どのようなものであったか、児童生徒の安全確保のためにどのような苦勞があったか、日頃の減災教育は役立ったか、防災計画どおりの対応ができたか、また、学校施設や教育活動、避難所運営などについて問題はなかったか、地震と風水害、雪害等の複合災害も考えられるので、さらに改善を図るべき点はないかなど、事業の目的に従い、基調講演、パネルディスカッションを開催して、関係者の生の声をうかがいながら、各種災害に備えることを目標にした。

実施内容の詳細

事業収支決算書

1 収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	摘要欄
市補助金	344,000円	295,000円	
自己資金	173,000円	148,196円	
収入合計	517,000円	443,196円	

2 支出の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	摘要欄
報償費	80,000円	30,000円	講演講師 30,000円 (コーディネーター・パネリスト は全員棄権)
旅費	66,000円	55,758円	講演講師、コーディネーター 8,100円 (パネリストは全員棄権) ガソリン代 40,968円 駐車場代 6,690円
通信費	20,000円	24,489円	関係先文書発送料金 11,833円 礼状文書発送料金 12,656円
消耗品費	70,000円	28,569円	PC インク、トナー購入費 28,569円
印刷製本費	200,000円	209,000円	開催案内チラシ印刷 印刷費1万枚 209,000円
役務費	10,000円	0円	ゴミ処分費なし。

備品費	50,000円	34,246円	プリンター購入 34,246円
食糧費	5,000円	25,774円	当日昼食代 12,600円 当日夕食代 7,950円 事前打合せ飲料代 5,224円
賃金	16,000円	32,000円	当日受付等 4人、2会場 受付、会場管理、後片付け 32,000円 (4人×8,000円)
会場借上げ費	0円	3,360円	大曲会館 2,070円 1,290円
支出合計	517,000円	443,196円	

※申請時に予算計上していなかった科目が発生した場合は、科目、決算額を記載するとともに、その事由及び内容を摘要欄に記入してください。